

大学名

香川大学（創造工学部 造形メディアデザインコース）

第55号テーマ
「大学と文化・芸術」**表題**

瀬戸内国際芸術祭の中心地 香川県でアート視点による課題を洞察するDRI教育

香川大学では、DRI教育（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス）の推進で、未体験の価値を創造できる教育を目指しています。当コースはそのD（デザイン思考）を担うコースです。今の地方の再生に必要なものは、ぶれることのない「ありがたい未来像」です。地方の20年先の未来像をしっかりと定めるには、地域に入り、発信し、人々が共感でき、そして深い洞察による課題の本質を探る力が不可欠となってきます。そのために瀬戸内国際芸術祭に代表されるアートプロジェクトでの制作活動は重要な取り組みの一つです。世界トップクラスのアーティストと100万人を超える観光客が集まる芸術祭の中心地である香川県の国立大学としての地の利を活かし、未来を見据えた未体験の価値の考察と発信を大学一丸となり推進しています。

活動1 瀬戸内国際芸術祭2019 出展作品、香川大学小豆島夢プロジェクトチーム 『演劇でみる小豆島のカタチ』



造形・メディア
デザインコース
柴田悠基講師

地方が抱える課題を根本から見つめなおし、課題解決の契機とするために演劇という手法を用います。地域のリサーチ、戯曲の執筆、県内の公募で集まった役者で演劇を上演し、離島に住む若い世代が抱える不安や問題を顕在化し、20年先の離島について考察します。

小豆島の高校にサテライト研究室を開設し、日常生活を共にしながら高校生のリアルな声を集めるフィールドワークを行い、その島の住民を舞台制作に巻き込みながら、若い世代が自身の未来をどのように考えているのかを演劇という手法で戯曲にまとめ観客、関係者と共有します。地方の閉鎖的な場に現代美術を代弁者としたコミュニケーションの場の構築が地方課題解決の契機となりうる試みを展開しています。



造形・メディア
デザインコース
学部2年生
岡本大輝さん

瀬戸内国際芸術祭2019で学生チームの代表と舞台制作の音響を担当し、通常の授業では経験することのできない緊張感とトップレベルの場での現場意識や哲学などを学ぶことができました。プロフェッショナルな空間に身を置くことで自分の立ち位置を客観的に把握する手助けとなり、今後の研究や活動に向けて重要な経験となりました。今後も文化や自然が豊かな香川大学で地域の一員として、より有意義な研究に発展させていきたいと思っています。



<https://setouchi-artfest.jp/artworks-artists/artists/267.html>

活動2 瀬戸内国際芸術祭2019県内関連事業、Seto Lumiere@高松丸亀商店街



造形・メディアデザインコース
大場晴夫教授

瀬戸ルミエールは、瀬戸内海の光の色やカタチ、そして人々の希望をCO-CREATIONした作品です。地元の人たちや観光客が、それぞれのイメージにある瀬戸内海の光を想い、ガラス面をキャンバスに見立てて、イメージに合ったカラーシールに希望や願いを書き入れました。1100名を超える方々の未来に対する希望や願いは、今、私達の社会や地域が抱える足元の問題を浮き彫りにすると同時に、「ありがたい未来像」への希望の指針として私達を強く励ましてくれました。企画・制作を行った学生は作品制作を通して地域の価値を学び、課題解決への発信を行いました。



造形・メディアデザインコース 学部2年生上江洲さん他

上記取組による成果・評価 など

アート視点による人々の共感を得た課題解決手法が地方に必要であると理解が広がり、上記取り組みによる観光客の増加や研究活動の継続が評価され、地元自治体からの寄付金や共同研究の受託など工学及びデザイン分野での地方再生に向けより深化させる取り組みに発展しています。加えて、学部共通教育でデザイン思考を取り入れた演習科目を行い、県産品の振興、地元企業のBtoC商品の開発も行ったことが地元自治体・企業に評価され、より緊密に地域の課題解決に取り組む連携が強化されています。